令和元年度　福島県立須賀川支援学校経営・運営ビジョン（本校）中間評価

【今年度の努力目標 】
児童生徒のよりよい生き方の実現に向け、本校において育成を目指す資質・能力を明確にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善に努める。




＜確かな学力の育成＞　学力の向上

小学部-A　　中学部-A　　高等部-A　　教務部-A

・小学部では、スタッフ会や日々の話し合い等を通して児童の特性や病状等、合理的配慮等について共通理解を図り、学習内容や手立て、指導体制を工夫して指導することができました。必要に応じて各関係機関と連携し、得た情報や助言を共有し指導に生かしています。グループ研修では、身に付けさせたい力を共有しながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりに取り組んでいます。

・中学部では、一人一人の発達段階や認知特性、病気の状態についてスタッフ会を通して共通理解を図り、学習内容の工夫や環境設定の配慮等を行いながら指導に当たることができました。今後も保護者、主治医、関係機関と連携を密に指導していきます。グループ研修においても、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりに努めていきます。

・高等部では、学部会や打ち合わせ、スタッフ会等を活用して、生徒に関する情報を共有して支援に当たることができました。研修対象教員の研究授業の参観や協議等に積極的に参加し、教員間で学びを深めています。グループ研修においても、「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にもって取り組んでいきます。

・教務部では、各教科の目標・内容や育成を目指す資質・能力を意識できるよう、各教科等を合わせた指導についての個別の指導計画の様式を見直しました。

＜豊かな生活の実現＞　よりよい生き方の実現（キャリア教育の充実）

小学部-A　　中学部-A　　高等部-B　　進路指導部-A

・小学部では、公共の交通機関や施設を利用した校外学習や中学部との合同昼食会、高等部作業実習見学・体験等を実施し、経験を広げることができました。高等部の作業実習・見学では、体験や教師との対話を通して児童自身が働く上で必要なことなどに気付くことができました。

・中学部では、進路希望調査を踏まえた体験入学への参加、三者面談、保護者と連携した自力通学の練習等を行いました。高等部の校内実習を見学し、報告会へも参加しました。卒業後の進路に向けて意識を高めることができました。

・高等部では、学校設定科目「職業と生活」を新設しました。「職業と生活」を核として、学校教育全体を通してキャリア教育を行うことができるようになりました。指導内容の整理や各教科等との関連付けを進め、指導の充実を図っていきます。

・進路指導部では、進路希望調査や進路相談を通して生徒の特性や希望を把握し、将来の生活に結びつくような実習先等を選定することができました。卒業後の追指導も支援機関と共に定期的に実施しています。「進路ニュース」の発行や福祉相談会、職業相談会等を通して、児童生徒や保護者、教員への進路情報の周知理解に努めました。

＜センター的機能の充実＞

地域のニーズに応じた支援の充実

地域支援センター-A

・継続した教育相談や各関係機関と連携した支援会議を実施することができました。須賀川市の子ども支援部会、おひさま学級へ定期的に参加し、連携を深めています。

・校内の学習会や、校内外の教職員を対象とした特別支援教育講演会を開催しました。特別支援教育の理解・啓発や、専門性の向上を図ることができました。今後も地域のニーズに応じた講演会、グループワーク等を検討・企画していきます。

・話し合いを焦点化するためのチェックシート等の活用や、支援の経過や手立てについて評価するための支援シートの検討等を行いながら、支援の充実に努めていきます。

＜健やかな体の育成＞　健康・安全生活の充実

保健部-A　　生徒指導部-A　　学校保健委員会-A

・保健部では、健康診断及び健康診断に関する事前・事後指導、良い歯の表彰、食育コンクール、親子食育教室、個別の健康指導、教員対象の「性に関する指導」研修会等を実施しました。

・生徒指導部では、生活チェック表の活用やあいさつ運動の実施を通して、あいさつや身だしなみについて意識を高めることができました。外部講師を招いての交通安全教室や携帯安全教室を通して、事故防止のために気を付けることやＳＮＳの危険性について理解を深めることができました。実際の生活に生かせるよう指導していきます。

・学校保健委員会では、基本的生活習慣や健康管理に関して、保護者との話し合いや連携した取組が行えるよう働き掛けるとともに、各学級や学習グループの健康課題に対する取組や、学校保健委員会における外部委員からの助言を職員で共有したりすることができました。今後は各学部の取組を全体で共有する場を設定していきます。

＜豊かな心の育成＞　道徳教育や交流及び共同学習の充実

各学部-A　　渉外部-A

・各学部において、地域の老人会や近隣の学校、居住地校との交流、地域の方々との松明製作における交流、高齢者施設訪問、特別支援学校作業技能大会への参加や校内周辺の清掃活動（清掃ボランティア）、ふれあいコンサートなどを行いました。今後も児童生徒が人とのかかわりを広げ深めることができるよう、活動の内容や場の設定等を工夫し進めていきます。

・渉外部では、松明製作に向けたPTA奉仕作業を実施しました。多くの保護者に参加していただき、松明製作にかかわる生徒の取組を理解していただく機会になりました。今後も生徒と保護者とが共に地域の行事に参加する機会を設定することで、児童生徒が周囲の人々に対して感謝の気持ちをもてるようにしたいと思います。

＜教師の専門性の向上＞　病弱教育の専門性の向上　　研修部-A　　情報教育部-A

・研修部では、全教職員を対象に、外部講師を招聘し「主体的・対話的で深い学びの視点での授業づくり」をテーマとして研修会を実施し、理解を深めました。月２回の校内グループ研修を実施し、児童生徒一人一人の主体的・対話的で深い学びの視点での手立てや支援方法を共有することができました。今後も研究授業による検証等を行いながら研修を深めていきます。

・情報教育部では、図書や情報機器を児童生徒が活用しやすいよう、適切に管理することができました。また、初任者研修やわかくさ学級におけるスイッチ教材作成等を通して、ＡＡＣやアシスティブテクノロジーの考え方の浸透を図りました。

A：十分できた　　B：だいたいできた　　C：あまりできなかった　　D：努力を要する　　E：評価できない